

【要点】

- (1) 11世紀になって、藤原氏と血縁関係のうすい後三條天皇が位につき、荘園の整理を行った。次の白河天皇は、位を皇子にゆずってからも上皇として政治の実権を握った。これが院政の始まりである。
- (2) 土地を開墾した武士は、国司の課税に対抗するために荘園を貴族や寺社に寄進し、自らは荘官として年貢の取り立てにあたった。貴族や寺社は朝廷に働きかけて、荘園に税をかけさせない不輸の権利や、役人の入らせない不入の権利を認めさせた。
- (3) 1156年に保元の乱、1159年に平治の乱がおこったが、これに勝利をえた平清盛は、1167年に太政大臣となって政治の実権をにぎった。平清盛は、兵庫の港を整備して中国の宋との間の貿易を積極的に行った。
- (4) 1180年、平氏を倒せという以仁王の命令によって、伊豆の源頼朝、木曾の源義仲らが挙兵した。頼朝は弟の源義経を派遣した。義経は義仲を倒し、さらに、1185年、壇ノ浦の戦いで平氏を滅ぼした。

【A問題：要点確認】

- (1) 11世紀になって、藤原氏と血縁関係のうすい()が位につき、荘園の整理を行った。次の白河天皇は、位を皇子にゆずってからも上皇として政治の実権を握った。これが()の始まりである。
- (2) ()世紀になって、()氏と血縁関係のうすい後三條天皇が位につき、()の整理を行った。次の()は、位を皇子にゆずってからも()として政治の実権を握った。これが院政の始まりである。
- (3) 土地を開墾した武士は、国司の課税に対抗するために荘園を貴族や寺社に寄進し、自らは()として年貢の取り立てにあたった。貴族や寺社は朝廷に働きかけて、荘園に税をかけさせない()の権利や、役人の入らせない不入の権利を認めさせた。
- (4) 1156年に保元の乱、1159年に()がおこったが、これに勝利をえた平清盛は、1167年に()となって政治の実権をにぎった。平清盛は、兵庫の港を整備して中国の()との間の貿易を積極的に行った。
- (5) 1180年、平氏を倒せという以仁王の命令によって、伊豆の()、木曾の源義仲らが挙兵した。頼朝は弟の源義経を派遣した。義経は義仲を倒し、さらに、1185年、()の戦いで平氏を滅ぼした。

[B問題]

- (1) 11世紀の後半、白河天皇は、天皇の位をしりぞいて上皇となった後も自ら政治を行った。このような政治を何というか。
- (2) 院政を始めた上皇は誰か。
- (3) 奈良時代に始まり、平安時代に発達した土地制度を何というか。
- (4) 有力な貴族に荘園を寄進することによって得られた権利を2つあげよ。
- (5) 「不輸の権」の内容を説明せよ。
- (6) 「不入の権」の内容を説明せよ。
- (7) 荘園の中の有力な農民は(A)と呼ばれ、(B)を納める責任を負うかわりに、土地を保障され、その土地を(C)に耕作させた。
- (8) 平治の乱のとき、対立したのは何氏と何氏か。またこの乱に勝って太政大臣になったのは誰か。
- (9) 保元の乱と平治の乱をきっかけとして、政治権力の担い手がどのように変化したかを説明せよ。
- (10) 平清盛は、武士として初めての地位について、政治の実権をにぎった。何という地位か。
- (11) 平清盛が、太政大臣になったのは何年か。
- (12) 平清盛は、中国の何という王朝と貿易を行って利益をあげたか。
- (13) 平清盛が、日宋貿易を行うために整備した港はどこか。
- (14) 壇ノ浦の戦いで、源氏の総大将として平氏をほろぼしたのは誰か。

[解答] (1) 院政 (2) 白河上皇 (3) 荘園 (4) 不輸の権 不入の権 (5) 荘園に税をかせかせない権利。 (6) 国の役人の荘園への立ち入りを拒否できること。 (7) A 名主 B 年貢 C 下人 (8) 源氏と平氏 平清盛 (9) 武士が政治のうえで大きな力をふるうようになった。 (10) 太政大臣 (11) 1167年 [参考] いちいち無理な(1167)清盛さん (12) 宋 (13) 兵庫 (14) 源義経

[C問題]

- (1) 後三条天皇が荘園の記録所を設置したのは何年か。
- (2) 白河上皇が院政を開始したのは何年か。
- (3) 平清盛が、源義朝を倒したのは何という乱か。

[解答] (1) 1069年 [参考] 登録(1069)せよと後三条 (2) 1086年 [参考] 威令は無(1086)限、院政開始 (3) 平治の乱